

# PRESS RELEASE

新国立劇場 2023/2024シーズン 演劇

## デカログ 7~10

【プログラムD・E交互上演】

ポーランドの名匠クシシュトフ・ケシロフスキの傑作『デカログ』全十篇を舞台化！  
4カ月にわたる長い旅路は、最終章へ！



吉田美月喜



章平



津田真澄



高田聖子



岡本 玲



大滝 寛



伊達 暁



万里紗



宮崎秋人



豎山隼太



石母田史朗



亀田佳明

2024年6月22日(土)~7月15日(月・祝) 新国立劇場 小劇場

【写真・資料のご請求、取材のお問い合わせ】

新国立劇場 制作部演劇 広報担当 杉田

TEL: 03-5352-5738 FAX: 03-5352-5737

E-mail: sugita\_a8863@nntt.jac.go.jp

〒151-0071 東京都渋谷区本町 1-1-1

 新国立劇場  
NEW NATIONAL THEATRE TOKYO

### 「デカローク」、いよいよフィナーレへ！

#### 映画界からも熱視線がおくられる、4か月にわたる異例のプロジェクトがいよいよ完結

「トリコロール」三部作、『ふたりのベロニカ』で知られる、ポーランドの名匠クシシュトフ・ケシロフスキが発表した『デカローク』。旧約聖書の十戒をモチーフに 1980 年代のポーランド、ワルシャワのとある団地に住む人々を描いた十篇の連作集です。人間を裁き断罪するのではなく、人間を不完全な存在として認め、その迷いや弱さを含めて向き合うことが描かれたこの作品は、人への根源的な肯定と愛の眼差しで溢れています。

十篇の物語は、オムニバス形式のそれぞれが独立した 1 時間前後の作品です。別々の作品でありながら、緩やかにリンクし、実はひそかなつながりを持っているという隠された楽しみも見つけることができます。

もともとテレビ放映用ミニ・シリーズとして 1987-1988 年にかけて撮影されたこの作品は、テレビ放映前に「デカローク5」と「デカローク6」を劇場公開バージョンに編集し『殺人に関する短いフィルム』『愛に関する短いフィルム』として 1988 年に発表、カンヌ国際映画祭審査員賞を受賞するなど国際的に高い評価を受けました。その後、テレビシリーズも 1989 年ヴェネツィア国際映画祭で上映、後に世界で劇場公開されました。

スタンリー・キューブリック、エドワード・ヤン、ホウ・シャオシェンなど世界の映画作家が賞賛の声を贈った、この十篇の物語を **2024 年 4 月～7 月、4か月にわたり、新国立劇場にて全十篇を完全舞台化！**

上演台本を、ロイヤルコート劇場との共同プロジェクト、劇作家ワークショップ発の作品『私の一ヶ月』（2022 年）の作家、**須貝 英**が担当。演出には、新国立劇場演劇芸術監督の**小川絵梨子**、そして上演時間計7時間半の『エンジェルズ・イン・アメリカ』二部作（2023 年）の演出を手掛けたことも記憶に新しい、**上村聡史**の二人があたります。

そして、全篇に登場する、登場人物たちを見守る「男」。”天使“と呼ばれる存在で、物語ごとに全く違う職業の人間になり、各エピソードの主人公の選択や岐路には関与せず、ただ見守ります。その難役を、小川、上村両名が信頼を寄せる、**亀田佳明**が1～6話に続き担います。

全 10 話を大きく 3 つのブロックに分け、4～5 月は『デカローク1～4』（プログラム A・B）を、5～6 月は『デカローク5・6』（プログラム C）を上演しました。そして長い旅路のフィナーレを飾る『デカローク7～10』（プログラム D・E）を 6 月 22 日（土）より上演します。

『デカローク7～10』では、上村聡史が 7 話「ある告白に関する物語」、8 話「ある過去に関する物語」の演出を担当し、そして小川絵梨子が 9 話「ある孤独に関する物語」、10 話「ある希望に関する物語」の演出を担当いたします。

各話、十戒の戒律に対応しており、7話は「盗んではならない」、8話は「隣人に関して偽証してはならない」、9話は「隣人の妻を欲してはならない」、10話は「隣人の財産を欲してはならない」をモチーフとしています。

ここまで1話～6話までを上演した本作へは、映画界からも熱視線がおくられ、映画「ある男」「蜜蜂と遠雷」「愚行録」など国内外で高い評価を得ている映画監督の石川 慶氏、映画「アナログ」「正欲」「ゴールド・ボーイ」など、数々の話題作の脚本を手掛けた港 岳彦氏からは絶賛のコメントが寄せられました。

劇中の季節も変化し、真冬からスタートした1話から、10 話では夏のはじめへと移り変わります。1～6話に続き、甘くはなく、厳しいテーマは突きつけられつつも、人間に寄り添った愛情深い視線と、そして希望が感じられる珠玉の4話に、どうぞご期待ください。

## 映画界からも推薦コメントが到着！

### 石川 慶（映画監督）

すごいものを見た。

あんなに何度も見ている作品なのに、すべての話に新しい発見があった。余分な枝葉が削ぎ落とされて、映像以上にテーマが可視化されている。

ああ、これが演劇の力なのだ、と。

舞台上にごろっと提示されたそのテーマは、今日本で生きる僕らの生き方そのものを問うているように感じた。

#### <Profile>

いしかわ けい。1977 年生まれ、愛知県出身。ポーランド国立映画大学で演出を学ぶ。長編デビュー作となった 2017 年に公開した『愚行録』では、ヴェネチア国際映画祭オリゾンティ・コンペティション部門に選出されたほか、新藤兼人賞銀賞、ヨコハマ映画祭、日本映画プロフェッショナル大賞では新人監督賞も受賞。恩田陸の傑作ベストセラーを実写映画化した 2019 年公開の『蜜蜂と遠雷』では、毎日映画コンクール日本映画大賞、日本アカデミー賞優秀作品賞などを受賞。2021 年には、世界的な SF 作家であるケン・リュウ原作の『Arc アーク』を監督。2022 年公開の『ある男』は、再度ヴェネチア国際映画祭オリゾンティ・コンペティション部門、釜山国際映画祭クロージング作品に選出。また国内でも報知映画賞作品賞を受賞するなど、国内外で高い評価を得ている。

### 港 岳彦（脚本家）

ケシロフスキの「デカログ」は啓示だった。巨大団地に暮らす名もなき人々の暮らしを凝視することで、神や愛や欲望、罪や法や社会、つまり世界を語るができるのだと教えてくれた。

今、あの 10 篇の物語が、洗練を極めるミニマムな舞台芸術にみごと転生したことに感動している。

原作が駆使した暗喩や象徴を明瞭に絵解きして再構築した舞台装置の妙。原作が海外の作品であることを忘れさせる演者たちの真実味。

この物語群は劇場から世界へと、確かに広がっている。

#### <Profile>

みなと たけひこ。日本映画学校（現・日本映画大学）7 期卒業。1998 年「僕がこの街で死んだことなんかあの人は知らない」で、シナリオ作家協会主催・大伴昌司賞受賞。2024 年「正欲」でおおさかシネマフェスティバル脚本賞受賞。脚本を手掛けた主な映画作品は、「アナログ」「正欲」「ゴールド・ボーイ」「ぼくが生きてる、ふたつの世界」「あゝ、荒野」「宮本から君へ」「とんび」など。TVドラマ作品に「仮想儀礼」「前科者 - 新米保護司・阿川佳代-」。



## 各話のあらすじ

### プログラム D (デカローグ7、デカローグ8)

#### デカローグ7 ある告白に関する物語



吉田美月喜



章平



津田真澄



亀田佳明

**国語教師と女子高生の娘の間に生まれた子供を密かに自分の子供として育ててきた母親の真実。**  
両親と同居している 22 歳のマイカ(吉田美月喜)は、最終学期中に大学を退学。彼女は 6 歳の妹アニヤを連れてカナダに逃れたいと考えていた。実はアニヤはマイカが 16 歳の時に生んだ子供で父親はマイカが通っていた学校の国語教師ヴォイテク(章平)であった。その学校の校長であったマイカの母エヴァ(津田真澄)は、その事実が醜聞になることを恐れ、アニヤを自分の娘としていたのだった.....。

演出:上村聡史

出演:吉田美月喜 章平 津田真澄

大滝 寛 田中穂先 堀元宗一郎 笹野美由紀 伊海実紗 安田世理・三井絢月(交互出演)  
亀田佳明

#### デカローグ8 ある過去に関する物語



高田聖子



岡本 玲



大滝 寛



亀田佳明

**倫理学を教える大学教授とその聴講生。聴講生の質問は教授の隠された過去を暴いていく。**  
スポーツ好きの女性大学教授ゾフィア(高田聖子)は、隣人の切手コレクター(大滝 寛)と親しくしている。ある日、勤務先の大学に、ゾフィアの著作の英訳者である女性大学教員エルジュビエタ(岡本玲)が来訪する。ゾフィアの倫理学講義を聴講した彼女は、議論する為の倫理的問題提起の題材として第二次大戦中にユダヤ人の少女に起こった実話を語り始めるが、その内容は二人の過去に言及したものであった.....。

演出:上村聡史

出演:高田聖子 岡本 玲 大滝 寛

田中穂先 章平 堀元宗一郎 笹野美由紀 伊海実紗  
亀田佳明

## プログラム E(デカローグ9、デカローグ10)

### デカローグ9 ある孤独に関する物語



伊達 暁

万里紗

宮崎秋人



亀田佳明

性的不能と宣告された夫は妻に事実を告げる。夫を励ます妻だが実は妻には既に若い恋人がいた。

40歳の外科医ロマン(伊達 暁)は、同業の友人から性的不能になったと診断され、若い妻であるハンカ(万里紗)と別れるべきではないかとほのめかされる。夫婦は診断結果を話し合い、お互いに別れる気はないことを確認するが、実はハンカは若い大学生マリウシュ(宮崎秋人)と浮気をしていた.....。

演出:小川絵梨子

出演:伊達 暁 万里紗 宮崎秋人

笠井日向 鈴木将一郎 松本 亮 石母田史朗

亀田佳明

### デカローグ10 ある希望に関する物語



豎山隼太

石母田史朗



亀田佳明

父の死により久しぶりに再会した兄弟は、父の遺品によって予期せぬ事件に巻き込まれていく。

パンクロックグループのリーダーである弟のアルトゥル(豎山隼太)は、コンサート会場にやってきた兄イェジ(石母田史朗)から、疎遠になっていた父親が亡くなったことを告げられる。父のフラットを訪れた兄弟は、彼が膨大な切手コレクションを残していたことを知る。父親のコレクションに計り知れない価値があることを知った兄弟は次第にコレクションへの執着を募らせ、偏執的になっていく.....。

演出:小川絵梨子

出演:豎山隼太 石母田史朗

鈴木将一郎 松本 亮 伊達 暁 宮崎秋人 笠井日向 万里紗

亀田佳明

## スタッフプロフィール

### 〔原作〕 クシシュトフ・ケシロフスキ Krzysztof Kieślowski

1941年6月27日、ポーランド・ワルシャワ生まれ。幼少期は父の仕事の都合で、ポーランド中を転々とする生活を送った。57年に舞台演出家を目指し国立演劇専門学校に入学するが、在学中に映画監督への道を志し、卒業後にロマン・ポランスキーやアンジェイ・ワイダなどを輩出したウッチ映画大学に入学した。66年に初の短編映画を製作。以後、80年までにドキュメンタリーを中心に多くの短編映画を手掛け、政治活動も活発に行う。76年、初の長編劇映画『傷跡』で劇場長編デビュー。2作目の『アマチュア』でモスクワ国際映画祭グランプリを受賞、シカゴ国際映画祭でゴールデン・ヒューゴ賞を受賞した。しかし検閲が厳しくなるとともに、ケシロフスキの活動も制限されるようになる。81年の『偶然』は検閲による上映禁止処分を受け、6年後の87年に公開された。

その後、88年から聖書の十戒をモチーフとした10編からなる長編TVシリーズ『デカログ』を製作。本作の完成前に第5話と第6話を劇場公開用に編集した『殺人に関する短いフィルム』と『愛に関する短いフィルム』を発表。カンヌ国際映画祭審査員賞を受賞するなど国際的に高い評価を受ける。『デカログ』はヴェネツィア国際映画祭審査員特別賞を受賞し、映画監督のスタンリー・キューブリックから「重要な映画」と激賞された。

91年にはポーランドとフランスを舞台にした『ふたりのベロニカ』を発表。再びカンヌ国際映画祭国際批評家連盟賞を受賞し、主演のイレーヌ・ジャコブも主演女優賞を受賞した。93年からはフランス政府の依頼でフランス国旗の三色の象徴「自由・平等・博愛」をモチーフにした「トリコロール」三部作を製作する。93年に第1作となる『トリコロール/青の愛』を発表。ヴェネツィア国際映画祭金獅子賞を受賞、主演のジュリエット・ビノシュは主演女優賞を受賞した。

「トリコロール」三部作を完結させた後、映画監督を引退することを宣言するが、95年に復帰。ダンテの『神曲』をモチーフにした「地獄篇・地上篇・天上篇」三部作の脚本に取り掛かる。しかし、長年患ってきた心臓病の手術を拒否し、96年に心臓発作でこの世を去った。遺稿となった「天上篇」は2002年にトム・ティクヴァ監督により『ヘヴン』として映画化。「地獄篇」「地上篇」は残りをクシシュトフ・ピエシェヴィチが書き上げ、「地獄篇」は05年にダニス・タノヴィッチ監督により『美しき運命の傷痕』として映画化された。「地上篇」はまだ製作されていない。



### 〔翻訳〕 久山宏一 KUYAMA Koichi

ポーランド・ロシア文化研究、ポーランド語翻訳・通訳。東京外国語大学等非常勤講師。ポーランドのアダム・ミツキューヴィチ大学にてスラヴ文学博士号取得。

著書に『ミツキューヴィチのソネットとロマン主義期のロシア・ソネット』（ポーランド語）、訳書にスタニスワフ・レム『大失敗』『捜査』（国書刊行会）、アダム・ミツキューヴィチ『ソネット集』『コンラット・ヴァレンロット』（未知谷）など。タデウシュ・スウォボジャネク『NASZA KLASA（ナシャ・クラサ）』（文学座・高瀬久男演出）共訳。

2019年に世界にポーランドの演劇文化を普及させたことに対して国際演劇協会ポーランドセンターのヴィトキューヴィチ記念賞が授与された。



### 〔上演台本〕 須貝 英 SUGAI Ei

早稲田大学第一文学部美術史学科卒。2007～13年まで「箱庭円舞曲」に俳優として所属。10年に「monophonic orchestra」を旗揚げ。脚本家・演出家・俳優・ワークショップ講師として活動する一方、20年から「Mo'xtra」を主宰。これまでの主な劇作・演出作品に穂の国とよはし芸術劇場 PLAT 主催・高校生と創る演劇『滅びの子らに星の祈りを』、海外ミステリーを原案とした Mo'xtra Produce『グリーン・マダー・ケース×ビショップ・マダー・ケース』があるほか、舞台『オリент急行殺人事件』の構成協力、舞台・映画脚本の執筆サポートなど多岐に渡って活動している。脚本を務めた映画『カラオケの夜』が門真国際映画祭2019にて映画部門最優秀作品賞を受賞。新国立劇場では22年に『私の一ヶ月』の脚本を担当。





## [演出] 小川絵梨子 OGAWA Eriko

2004年、ニューヨーク・アクターズスタジオ大学院演出部卒業。06～07年、平成17年度文化庁新進芸術家海外研修制度研修生。18年9月より新国立劇場の演劇芸術監督に就任。近年の演出作品に『ART』『おやすみ、お母さん』『管理人／THE CARETAKER』『ダウト～疑いについての寓話』『検察側の証人』『ほんとうのハウンド警部』『死と乙女』『熱帯樹』『出口なし』『FUN HOME』『死の舞踏／令嬢ジュリー』『RED』など。新国立劇場では『レオポルトシュタット』『アンチポデス』『キネマの天地』『タージマハルの衛兵』『骨と十字架』『スカイライト』『1984』『マリアの首-幻に長崎を想う曲-』『星ノ数ホド』『OPUS／作品』の演出のほか、『東京ローズ』『かもめ』『ウィンズロウ・ボーイ』の翻訳も手掛けた。



## [演出] 上村聡史 KAMIMURA Satoshi

2001年文学座附属演劇研究所入所、18年に同劇団を退座し、現在はフリーで活動。09年より文化庁新進芸術家海外留学制度において1年間イギリス・ドイツに留学。第22回・第29回読売演劇大賞最優秀演出家賞、第17回千田是也賞、第56回紀伊國屋演劇賞を受賞。近年の主な演出作品に、『夜は昼の母』『My Boy Jack』『野鴨-Vildanden-』『ガラスの動物園』『森 フォレ』『Oslo(オスロ)』など。新国立劇場では、『エンジェルス・イン・アメリカ』『斬られの仙太』『オレスティア』『城塞』『アルトナの幽閉者』を演出。

## 出演者プロフィール

### プログラムD(デカローグ7、デカローグ8)

#### デカローグ7



## 吉田美月喜 YOSHIDA Mizuki

2017年にスカウトされ芸能界デビュー。以降、ドラマ、映画、CM、舞台と幅広く活躍。最近の主な出演作に、映画『カムイのうた』『パラダイス／半島』『あつい胸さわぎ』『メイヘムガールズ』『MIRRORLIAR FILMS Season1』『Petto』『たぶん』『鬼ガール!!』『町田くんの世界』、ドラマ『マイストロベリーフィルム』『クライムファミリー』『ファーストステップ2～世界をつなぐ勇気の言葉～』『沼る。港区女子高生』『サヨウナラのその前に』『ネメシ』『ドラゴン桜』『今際の国のアリス』『シロでもクロでもない世界で、パンダは笑う』などがある。

【主な舞台】『エゴ・サーチ』、新国立劇場では『モグラが三千あつまって』に出演。



## 章平 Shohei

2014年に出演したミュージカル『テニスの王子様』2ndシーズンでの河村隆役を通し、パワフルな演技に注目が集まる。16年の『Take Me Out』では、カミングアウトしたゲイのメジャーリーガーという難解な役どころを熱演し好評を博す。以降、ミュージカル、ストレートプレイと幅広く活動する。

【主な舞台】『LUPIN～カリオストロ伯爵夫人の秘密～』『エドモン～「シラノ・ド・ベルジュラック」を書いた男～』『エリザベート』『シラノ・ド・ベルジュラック』『天保十二年のシェイクスピア』『BLUE/ORANGE』『二十日鼠と人間』『ピーターパン』『Take Me Out 2018』『ローゼンクランツとギルデンスターンは死んだ』『スーツの男たち』など。新国立劇場では『キネマの天地』に出演。



## 津田真澄 TSUDA Masumi

1986年、青年座入団。以降、舞台を中心に海外作品の吹き替えなど活動の場を広げる。これまでの主な出演にドラマ『名古屋行き最終列車 2021』『猫探偵の事件簿』『anone』、吹き替えに映画『マーベルズ』『パラサイト 半地下の家族』『Ray／レイ』、海外ドラマ『ER 緊急救命室』などがある。

【主な舞台】『シングルファザーになりまして。』『横濱短篇ホテル』『ダウト～疑いについての寓話』『アルビオン-白亜の地イングランド-』『ブルーストッキングの女たち』『からゆきさん』『断罪』『天一坊十六番』『をんな善哉』『藪原検校』『どん底』『赤シャツ』『欲望という名の電車』などがある。新国立劇場では『貴婦人の来訪』『花咲く港』に出演。



## 高田聖子 TAKADA Shoko

1987年『阿修羅城の瞳』より劇団☆新感線に参加。95年に自身が立ち上げたプロデュースユニット「月影十番勝負」続く「月影番外地」では、様々な演劇人とコラボレートするなど新たな挑戦を続けている。第51回紀伊國屋演劇賞個人賞受賞。

【主な舞台】『カラカラ天気と五人の紳士』『天號星』『ミナト町純情オセロ～月がとつても慕情篇』『暮らしなずむばかりで』『薔薇とサムライ 2～海賊女王の帰還』『THE PRICE』『狐晴明九尾狩』『ベイジルトウンの女神』『あれよとサニーは死んだのさ』『けむりの軍団』『ざ・びぎにんぐ・おぶらぶ』、『メタルマクベス disc2』など。新国立劇場では『アンチポデス』『夢の裂け目』『舞台は夢～イリュージョン・コミック～』に出演。



## 岡本 玲 OKAMOTO Rei

2003年、第7回ニコラモデルオーディションでグランプリを獲得し、デビュー。以後、ドラマ、映画、CM、舞台と多方面で活動。主な出演に、NHK連続テレビ小説『虎に翼』、ドラマ『極限夫婦』『消せない「私」—復讐の連鎖—』『その結婚、正気ですか？』『執事 西園寺の名推理』『わろてんか』、映画『茶飲友達』『弥生、三月-君を愛した30年』『ボクはボク、クジラはクジラで、泳いでいる。』『赤い糸』などがある。

【主な舞台】『BREAKING THE CODE』『陰陽師 生成り姫』『葉隠れ旅館物語』『湊横濱荒狗挽歌～新粧、三人吉三。』『森 フォレ』『迷子』『ダニーと紺碧の海』『罪男と罰男』『熱帯樹』『壁蝨』など。

新国立劇場では『レオポルトシュタット』『ロビー・ヒーロー』に出演。



## 大滝 寛 OTAKI Hiroshi

文学座所属。1983年『シラノ・ド・ベルジュラック』で初舞台。これまでの主な出演に、ドラマ『假想儀礼』、NHK大河ドラマ『青天を衝け』、NHK連続テレビ小説『ちむどんどん』、映画『凶悪』『ビブリア古書堂の事件手帖』、海外作品の吹き替えに映画『アルマゲドン』『ガーディアンズ・オブ・ギャラクシー』『ヘイトフル・エイト』『グリーンブック』、海外ドラマ『冬のソナタ』『ダメージ』などがある。

【主な舞台】『シングルファザーになりました。』『磁界』『欲望という名の電車』『雪やこんこん』『検察側の証人』『酔鯨云々』『寒花』『かのような私—或いは斎藤平の一生—』『女の一生』『冒した者』など。新国立劇場では『リチャード二世』『夏の夜の夢』『花咲く港』に出演。

## プログラム E(デカローグ9、デカローグ10)

### デカローグ9



## 伊達 暁 DATE Satoru

1996年、「阿佐ヶ谷スパイダース」の旗揚げに参加し、中心メンバーとして活動。これまでの出演に、NHK大河ドラマ『光る君へ』、「星新一の不思議な不思議な短編ドラマ『もてなし』『漂着者』『川のほとりで』、映画『牛首村』『罪の声』『閉鎖病棟』などがある。

【主な舞台】『不思議な国のエロス』『ジャイアンツ』『三人姉妹』『夜叉ヶ池』『幽霊はここにいる』『野鴨 -Vildanden-』『老いと建築』『両国花錦闘士』、音楽劇『銀河鉄道の夜2020』、『人間合格』『桜姫～燃焦旋律隊殺於焼跡』『セールスマンの死』『髑髏城の七人～season月<下弦の月>』など。新国立劇場では『アンチポデス』『斬られの仙太』『骨と十字架』に出演。



## 万里紗 Marissa

日本女子大学卒業後、舞台や映像と幅広く活動、2016年には主演映画『眼球の夢』が第64回ロッテルダム国際映画祭の正式招待を受ける。近年は戯曲翻訳や演出にも活動の幅を広げ、翻訳作に『原宿ガールズ』『Big Deal』『A WALK IN THE WOODS』、演出作に、『ミュージカル 人間ども集まれ！』、『詩劇 響きと怒り』などがある。

【主な舞台】『不思議な国のエロス』『屠殺人ブッチャー』『海戦 2023』『アラジンと魔法の音楽会』『オロイカソング』『Navy Pier 埠頭にて』『ミュージカル 魍魎の匣』『Op.110 ベートーヴェン「不滅の恋人」への手紙』『Fly By Night～君がいた』『K.テンペスト』『ピアフ』『ペール・ギュント』など。新国立劇場では『レオポルトシュタット』『アンチポデス』に出演。





## 宮崎秋人 MIYAZAKI Shuto

2011年デビュー。以降、舞台を中心に活動。近年は、映像にも活動の場を広げている。これまでの出演に、映画『ツーアウトフルベース』『異物-完全版-』『私がモテてどうすんだ』『ちよつとまで野球部!』、ドラマ『ブラックガールズトーク』『リビングの松永さん』『帰ってきたらいつぱいして。』『シッコウ!!~犬と私と執行官~』『ペンディングトレイン-8時23分、明日 君と』『最愛』などがある。

【主な舞台】『ピロクシー・ブルース』『マヌエラ』『アルキメデスの大戦』『マーキュリー・ファー』『ザ・ドクター』『ロミオとジュリエット』『タイトル、拒絶』『冬の時代』『光より前に~夜明けの走者たち~』など。

## デカローグ10



## 豎山隼太 TATEYAMA Hayata

大阪府出身。地元大阪で子役として活動後、2009年より蜷川幸雄率いる演劇集団さいたまネクスト・シアターに所属し、最終公演まで在籍。

【主な舞台】『夜は昼の母』『桜の園』『ハリー・ポッターと呪いの子』『ガラスの動物園』『雨花のけもの』『マタ・ハリ』『作者を探す六人の登場人物』『少年 B が住む家』『彼らもまた、わが息子』『朝のライラック』『ハムレット』『ヘンリー五世』『ジハード-Djihad-』『NINAGAWA・マクベス』など。



## 石母田史朗 ISHIMODA Shiro

1996年、青年座に入団。以降、舞台を中心にテレビドラマに出演するなど活動の場を広げる。これまでの出演に、ドラマ『三千万の使いかた』『相棒 season20』『刑事7人 season 7』『当番弁護士事件ファイル』、映画『釣りバカ日誌19』など。

【主な舞台】『同盟通信』『畏』『吾輩は漱石である』『横濱短篇ホテル』『ブルーストッキングの女たち』『からゆきさん』『東京ストーリー』『D.N.A』『ブンナよ、木からおりてこい』『旗を高く掲げよ』『元禄港歌-千年の恋の森-』『ジュリアス・シーザー』『ジャンヌ』『闇に咲く花』『アントニーとクレオパトラ』『十二人の怒れる男』などがある。新国立劇場では『夏の夜の夢』『ガラスの動物園』『城』に出演。



## 亀田佳明 KAMEDA Yoshiaki

文学座所属。劇団公演『モンテ・クリスト伯』にて初舞台以降、舞台を中心に活動。これまでの主な出演に映画『検察側の罪人』、連続テレビ小説『らんまん』など。『タージマハルの衛兵』『ガラスの動物園』にて第54回紀伊國屋演劇賞個人賞受賞。

【主な舞台】『パートタイマー・秋子』『ブレイキング・ザ・コード』『ライカムで待っとく』『ダウト~疑いについての寓話』『森 フォレ』『ピサロ』『岸 リトラル』など。新国立劇場では『終わりよければすべてよし』『尺には尺を』『アンチポデス』『リチャード二世』『タージマハルの衛兵』『ヘンリー五世』『マリアの首-幻に長崎を想う曲-』『ヘンリー四世』『三文オペラ』『るつぽ』に出演。

## 公演概要

【タイトル】『デカローグ 7～10』[プログラム D・E 交互上演]

原作:クシシュトフ・ケシロフスキ／クシシュトフ・ピエシェヴィチ

翻訳:久山宏一

上演台本:須貝 英

演出:小川絵梨子／上村聡史

美術:針生 康

映像:栗山聡之

照明:松本大介

音楽:阿部海太郎

音響:加藤 温

衣裳:前田文子

ヘアメイク:鎌田直樹

演出助手:長町多寿子／西 祐子

舞台監督:濱野貴彦 清水浩志

総合舞台監督:齋藤英明

主催:新国立劇場

後援:ポーランド共和国大使館 / ポーランド広報文化センター

Supported by Embassy of the Republic of Poland / Polish Institute in Tokyo

### 【キャスト】

#### プログラムD

<デカローグ7>

吉田美月喜、章平、津田真澄／大滝 寛、田中穂先、堀元宗一郎、笹野美由紀、伊海実紗／安田世理・三井絢月(交互出演)  
／亀田佳明

<デカローグ8>

高田聖子、岡本玲、大滝 寛／田中穂先、章平、堀元宗一郎、笹野美由紀、伊海実紗／亀田佳明

#### プログラムE

<デカローグ9>

伊達 暁、万里紗、宮崎秋人／笠井日向、鈴木将一郎、松本 亮、石母田史朗／亀田佳明

<デカローグ10>

豎山隼太、石母田史朗／鈴木将一郎、松本 亮、伊達 暁、宮崎秋人、笠井日向、万里紗／亀田佳明

【会場】 新国立劇場 小劇場

【公演日程】2024年6月22日(土)～7月15日(月・祝)

※開場は開演の30分前です。

| 6月    | 22 | 23 | 24 | 25  | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 7月    | 1     | 2   |
|-------|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|-------|-------|-----|
| 曜日    | 土  | 日  | 月  | 火   | 水  | 木  | 金  | 土  | 日  | 曜日    | 月     | 火   |
| 13:00 | D  | E  | D  | 休演日 | E  | D  | E  | E  | D  | 13:00 | E     | 休演日 |
| 17:30 | E  | D  |    |     |    |    |    | D  |    | 17:30 |       |     |
| 19:00 |    |    |    |     |    |    |    |    |    |       | 18:30 |     |

| 7月    | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9   | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15  |  |
|-------|---|---|---|---|---|---|-----|----|----|----|----|----|-----|--|
| 曜日    | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火   | 水  | 木  | 金  | 土  | 日  | 月・祝 |  |
| 13:00 | D |   |   | D | E | E | 休演日 | D  |    |    | E  | D  | E   |  |
| 17:30 |   |   |   | E | D |   |     |    |    |    |    | D  | E   |  |
| 19:00 |   | E | D |   |   |   |     |    |    | E  | D  |    |     |  |

【料金(税込)】A席 7,700円／B席 3,300円

【一般発売】 発売中

【チケット申し込み・お問い合わせ】

新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00~18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <https://nntt.pia.jp/>

\* **Z席1,650円** Z席(各日10席)は、公演当日朝10:00から、新国立劇場Webボックスオフィスおよびセブン-イレブンの端末操作により全席先着販売いたします。先着販売後、残席がある場合は、公演当日朝11:00からボックスオフィス窓口でも販売いたします。※電話予約不可。

\* **当日学生割引** 公演当日残席がある場合、Z席を除く全ての席種について50%割引にて販売。要学生証。電話予約可。

\* **各種割引** 新国立劇場では、高齢者割引(65歳以上5%)、障がい者割引(20%)、学生割引(5%)、ジュニア割引(小中学生20%)、アトレ会員割引(5~10%)など各種の割引サービスをご用意しています。

【新国立シアタートーク】

**プログラムD**

日時:7月3日(水)終演後

出演:吉田美月喜、章平、津田真澄／高田聖子、岡本 玲、大滝 寛

**プログラムE**

日時:7月1日(月)終演後

出演:伊達 暁、万里紗、宮崎秋人／豎山隼太、石母田史朗

司会:中井美穂

入場方法:本公演チケット(いずれの日程でも可)をご提示ください。



## <ギャラリープロジェクト>『デカローグ』関連 動画・イベント

### 【動画】演劇嘶 Vol.14「『デカローグ』から見る、ポーランド文化」その1～3



翻訳の久山宏一氏をお迎えし、『デカローグ』を軸にポーランド文化について、演出の上村聡史氏がインタビューしました。「デカローグ」がテレビ放映されたとき、ポーランドに在住し、作品を観たという久山氏が1980年代のポーランドでの実体験を踏まえて、「デカローグ」作品背景やケシロフスキ監督の意図などを読み解きます。

7月31日まで新国立劇場 Youtube チャンネルにて配信中！

### トークセッション 演劇嘶 Vol.15「4人で喋る『デカローグ』」



1話～10話まで全ての上演台本を担当した須貝 英、演出の小川絵梨子(新国立劇場 演劇芸術監督)と上村聡史、そして出演者の中でただ一人、1話～10話全話に出演する亀田佳明が登場し、『デカローグ』やケシロフスキ作品の魅力、舞台化までのプロセス、そして公演と稽古が同時に進むという異例のスケジュール進行など、語り尽くします。

[日時]2024年7月8日(月)18:00～19:30(予定)

[会場]新国立劇場 小劇場

[出演]須貝 英、小川絵梨子、上村聡史、亀田佳明

[料金] 無料・自由席(要予約)・先着順

[受付開始]2024年5月24日(金)12:00～受付中

※定員に達し次第、受付を終了いたします。

## これまでに上演した「デカローグ1～6」

プログラム A (デカローグ1、デカローグ3) 公演期間:2024年4月13日(土)～5月6日(月・休)

### デカローグ1 ある運命に関する物語



大学の言語学の教授で無神論者の父クシシュトフ(ノゾエ征爾)は、12歳になる息子パヴェウと二人暮らしをしており、信心深い伯母イレナ(高橋恵子)が父子を気にかけていた。パヴェウは父からの手ほどきでPCを使った数々のプログラム実験を重ねていたが.....。

演出:小川絵梨子

出演:ノゾエ征爾 高橋恵子/チョウ ヨンホ 森川由樹  
鈴木勝大 浅野令子/亀田佳明

### デカローグ3 あるクリスマス・イヴに関する物語



クリスマス・イヴ。妻子とともにイヴを過ごすべく、タクシー運転手のヤヌシュ(千葉哲也)が帰宅する。子供たちの為にサンタクロース役を演じたりと仲睦まじい家族の時間を過ごす。その夜遅くヤヌシュの自宅に元恋人の女性エヴァ(小島聖)が現れ、ヤヌシュに失踪した夫と一緒に探してほしいと訴える.....。

演出:小川絵梨子

出演:千葉哲也 小島 聖/ノゾエ征爾 浅野令子  
鈴木勝大 チョウ ヨンホ 森川由樹/亀田佳明

プログラム B(デカローグ2、デカローグ4) 公演期間:2024年4月13日(土)～5月6日(月・休)

### デカローグ2 ある選択に関する物語



交響楽団のバイオリニストである30代の女性ドロタ(前田亜季)と彼女と同じアパートに住む医長(益岡 徹)の二人。ドロタは重い病を患って入院している夫アンジェイの余命を至急知りたいと医師を訪ねる。ドロタは愛人との間にできた子を妊娠していた.....。

演出:上村聡史

出演:前田亜季 益岡 徹/坂本慶介 近藤 隼  
松田佳央理/亀田佳明

#### デカログ4 ある父と娘に関する物語



快活で魅力的な演劇大学の生徒アンカ(夏子)は、父ミハウ(近藤芳正)と二人暮らし。母はアンカが生まれた時に亡くなった。父娘は友達同士の様に仲睦まじく生活していたが、ある日アンカは「死後開封のこと」と父の筆跡で書かれた封筒を見つける。その中身を見たアンカがとった行動とは.....。

演出: 上村聡史

出演: 近藤芳正 夏子/益岡 徹 松田佳央理 坂本慶介  
近藤 隼/亀田佳明

プログラムC(デカログ5、デカログ6) 公演期間: 2024年5月18日(土)~6月2日(日)

#### デカログ5 ある殺人に関する物語



20歳の青年ヤツェク(福崎那由他)は、街中で見かけた中年のタクシー運転手ヴァルデマル(寺十 吾)のタクシーに乗り込み、人気のない野原で運転手の首を絞め、命乞いする彼に馬乗りになり石で撲殺する。殺人により法廷で裁かれることになったヤツェクの弁護を担当したのは、新米弁護士のピョトル(渋谷謙人)だった.....。

演出: 小川絵梨子

出演: 福崎那由他 渋谷謙人 寺十 吾/齊藤直樹 内田健介  
名越志保 田中 亨 坂本慶介/亀田佳明

#### デカログ6 ある愛に関する物語



友人の母親と暮らす19歳の孤児トメク(田中 亨)は、地元の郵便局に勤めている。彼は向かいに住む30代の魅力的な女性マグダ(仙名彩世)の生活を日々望遠鏡で覗き見ていた。マグダと鉢合わせしたトメクは、彼女に愛を告白するが、自分に何を求めているのかとマグダに問われてもトメクは答えられない。その後デートをした二人、マグダはトメクを部屋に招き入れるが.....。

演出: 上村聡史

出演: 仙名彩世 田中 亨/寺十 吾 名越志保 齊藤直樹  
内田健介/亀田佳明